

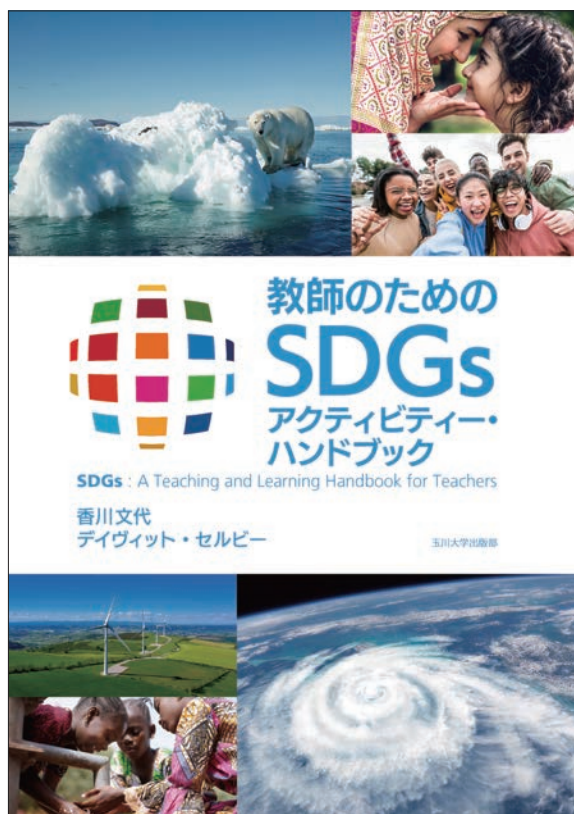
教師のための SDGs アクティビティ・ ハンドブック

SDGs:

A Teaching and Learning Handbook for Teachers

香川文代

デイヴィッド・セルビー 著



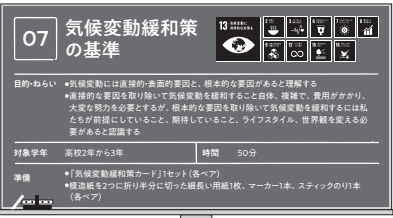
SDGsの 授業を 実践したい 先生方 必携の一冊

SDGsに関する
さまざまな社会的課題について
考えることができる
95のアクティビティを紹介

この一冊が手元があれば、
すぐにSDGsに関するテーマの
授業を行うことができる！

多様な課題に向き合うことで、自分で考える力が身につく

本書はSDGsに関するさまざまな社会的課題について考えることができる95のアクティビティを紹介したハンドブックです。持続可能な世界をめざすためのカリキュラム開発や教育制度改革に取り組む国際NGOが玉川学園で実際に行った授業をアクティビティ集としてまとめています。SDGsについての授業を考えている教師にとっては必携の一冊となるものです。



07 気候変動緩和策の基準

目的・ねらい 気候変動には複雑な表面的要因と、根本的な要因があると理解する。
 ・持続的な努力を取り除いて気候変動を緩和すること自体、複雑で、費用がかかり、大きな努力を必要とするが、根本的な要因を取り除いて気候変動を緩和するには必要が前提にしていること、期待していること、ライフスタイル、世界観を変える必要があること認識する。

対象学年 高校2年から3年 時間 50分

準備
 ・「気候変動緩和策カード」1セット(各ペア)
 ・横断紙を2つに折り半分に切った細長い用紙1枚、マーカー1本、スティックのり本(各ペア)

進め方

Step 1 2人組みをつくる。各ペアに細長い用紙1枚とマーカーを配り、用紙の長い辺に沿って長い線を1本書くように指示する。各ペアに「気候変動緩和策カード」を1セット配り、それぞれのカードを線のど真ん中に置くかを考える作業を5分と説明する。下図に示す「基準」の1つをペアごとに割り当て、その「基準」を使ってカードの位置を判断するよう指示する(割り当てた「基準」は同数になるようにする)。

(基準の一覧)


受け入れられる	←	→	受け入れられない
実践的	←	→	非実践的
望ましい	←	→	望ましくない
現実的	←	→	非現実的
公平な	←	→	不公平な
効果的な	←	→	効果的でない

ペアでどこにそれぞれのカードを置くか決めたら、カードを線に沿って貼り付けさせる。それぞれのカードの位置関係に注意して置いていくように促す。ペアの間で同意しなかった対策については、意見の不一致の理由を用紙に書き込ませる。[15分]


Step 2 異なる基準を割り当てられた3つのペアを1組にする。6人のグループ内で、各ペア順番に自分たちのカードの位置関係を説明しその根拠を示すように促す。聞いている他の2組のペアにはあ

えて批判的な質問をするように促す。[20分]

Step 3 クラス全体で全般的な討論やディスカッションを始める前に、各グループからのアクティビティに対する振り返りのコメント(主な問題点、主な相違点などについて)を促す。[15分]



Step 1 (基準)に沿ってカードを置く①



Step 1 (基準)に沿ってカードを置く②

応用

● **Step 2** の追加として、それぞれのペアにさらに新しい基準を割り当て、新しい基準がすでに作った位置関係を変えることによるか吟味させる。矢印やコメントを用紙に記入させる。

発展

● 生徒個人、もしくはペアで、自分の住む町、市、都道府県でどのような気候変動の緩和対策の例があるか調べさせる。それらをもとにこの授業で使った基準の幾つかを使って評価し、短いレポートを書かせ、次の授業で発表させる。
 ● 校内で取り組むことができる気候変動緩和の行動案を考えさせて、それを行動に移すように促す。

展開の可能性・ファシリテーションのヒント

カードに書かれた気候変動緩和策は、気候変動のはっきりとした直接的な原因を扱うものから、根本にある問題に対応するものまで幅広く含んでいる。さまざまな基準をペア活動で使用し、また異なる基準を使ったペアを一緒に活動させるという手法は、これら両方の対策から生じる問題を浮き彫りにするための手段である。
 クラス全体のディスカッション(Step 3)での問いかけとしては次のようなものがある。
 ・どの基準が「より良い」気候変動緩和策であると判断するのに適していますか。それはどうしてですか。
 ・温室効果ガスの排出に焦点を当てた緩和策は、根本的な変化を避ける「目患依然」の考え方に基

●そのまま授業で使えるプリントやカードをアクティビティの最後に収録

07 気候変動緩和策カード

1. 持続不可能な消費を、環境への負担がより少ない個人的な満足感という形に置き換えることによって減らす。	2. 原生林の伐採を止める。もしくは禁止する。そして植林を拡充計画で行う。
3. 建物の断熱材に関しての高い基準を設定する	4. 自家用車使用と航空機による移動に「燃料消費」税でペナルティーを課すことで、車や飛行機による移動を減らす。
5. 非都市化を進め、自給自足の持続可能な田舎のライフスタイルを奨励する。	6. 世界規模の人口増加を抑える。もしくはそれをつづがえすような対策をとる。
7. フードマイルの少ない地産地消で、地域の食料に基づいて経済に関与する。	8. 製造業社の温室効果ガスの排出上限を定め、温室効果ガスの排出を一律する。
9. 電気自動車や、エネルギー効率よく(使う飛行機など)のような環境に優しい交通手段に切り替える。	10. 化石燃料から再生可能エネルギーに切り替える。
11. 高所得国が今までに大量に排出した、温室効果ガスに対する気候変動開発基金を支払うことによって、高所得国と低所得国の間に「公平な条件」をつくる。	12. 「国家の幸せや豊かさ」を最適に衡量するために国内総生産ではなく国内総幸福量を使い「定常」経済を支持して、経済成長を縮小する。止める。もしくはつづがえす。

●「目的・ねらい」はもちろん、かかる「時間」や必要な「準備」まで提示
 ●授業の「進め方」だけでなく、「応用」や「発展」、「展開の可能性・ファシリテーションのヒント」なども丁寧に説明

第1部 インターアクティブで参加型の学び

第2部 SDGs アクティビティ

第1章 環境
 第2章 貧困・不平等
 第3章 人権
 第4章 外交・リーダーシップ
 第5章 国際協力

第3部 失われた鍵を求めて：公平でより寛大な世界を実現するために不可欠な学び

香川文代
 国際NGO「サステナビリティ・フロンティアーズ」のリサーチディレクター。デイヴィッド・セルビー氏との共著も含め60本以上の著書がある。

デイヴィッド・セルビー
 国際NGO「サステナビリティ・フロンティアーズ」の創設ディレクター。『地球市民を育む学習』、『グローバル・クラスルーム』(ともに明石書店、共著)ほか、多数の著書がある。

サステナビリティ・フロンティアーズ
 自然とのつながりを修復、回復することによって人間社会の変革を目指し、地球の倫理に根ざした革新的な教育の理論や実践の開発や研究を行う国際NGO。

ご注文書 **FAX 042-739-8940**

教師のための SDGs アクティビティ・ハンドブック

香川文代 デイヴィッド・セルビー 著

ISBN978-4-472-40628-7 定価4,950円(本体4,500円+税10%)

玉川大学出版部

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 Tel 042-739-8935 Fax 042-739-8940
<http://www.tamagawa-up.jp/> E-mail: tup@tamagawa.ac.jp

番線印

ご注文冊数

冊

ご担当

様